

大阪湾漁場環境速報

2022年12月14日発行
兵庫のり研究所

海域西部では栄養塩を消費する植物プランクトンはほぼ確認されませんが、東部では大型珪藻のコシノディスカスがやや確認されています。窒素は、陸水等の影響が見られた湾奥部で9 μg-at/L以上、その他の海域において5 μg-at/L台となっています。

※調査点010は波浪により欠測

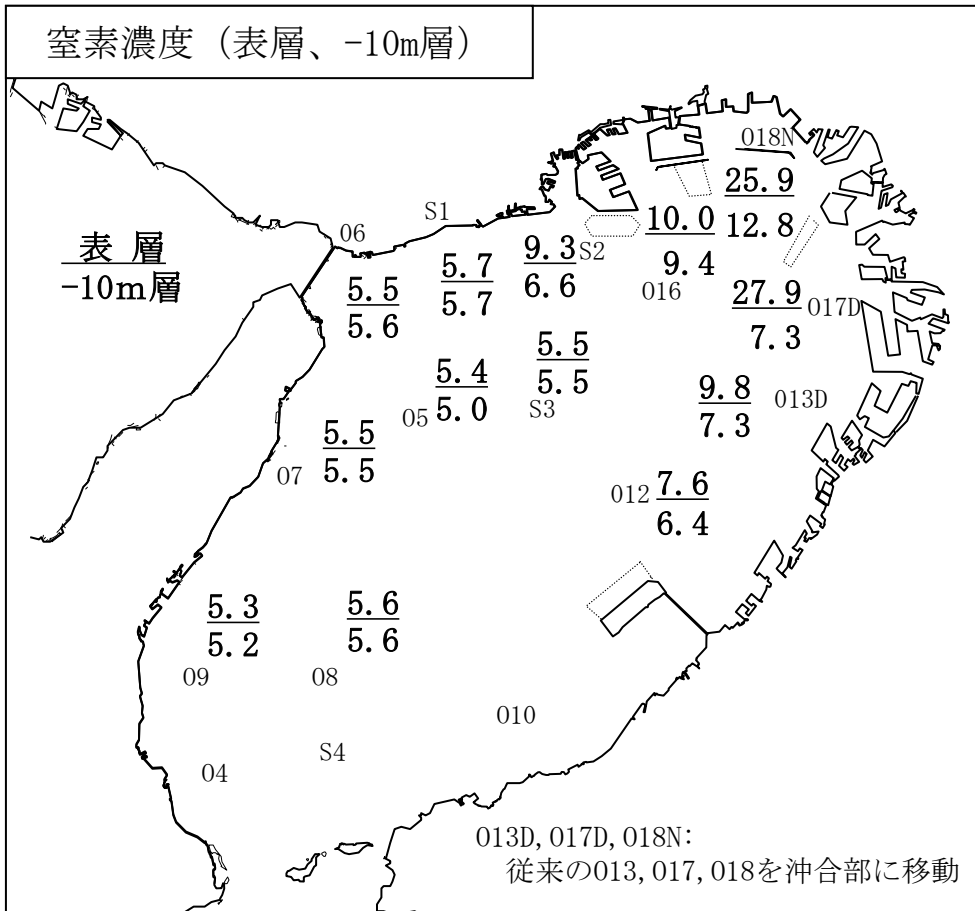
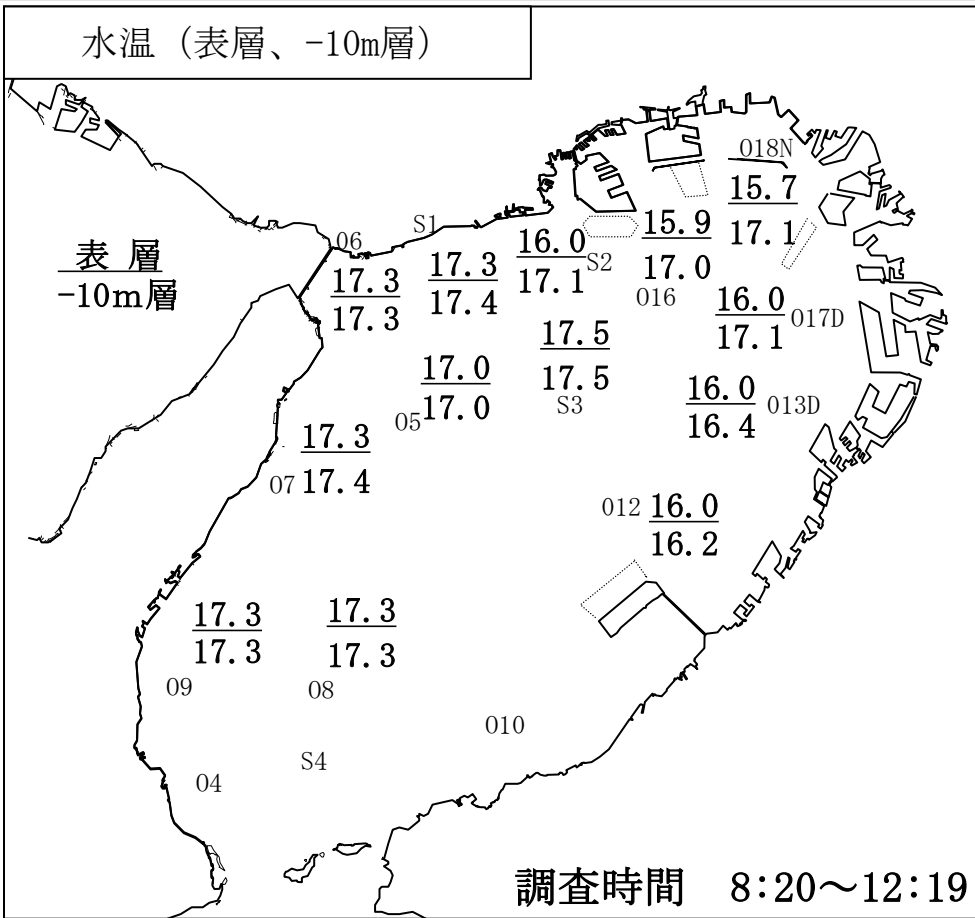
(水温) 表層は湾奥の陸水の影響が見られる地点で15~16℃台、湾央から湾西部で17℃台で、平均16.9℃。平年比約0.1℃高い。-10m層は平均17.1℃(平年比+0.7℃)。

(塩分) 表層平均32.48psu(平年 31.37)。-10m層平均32.66psu(平年 32.18)。

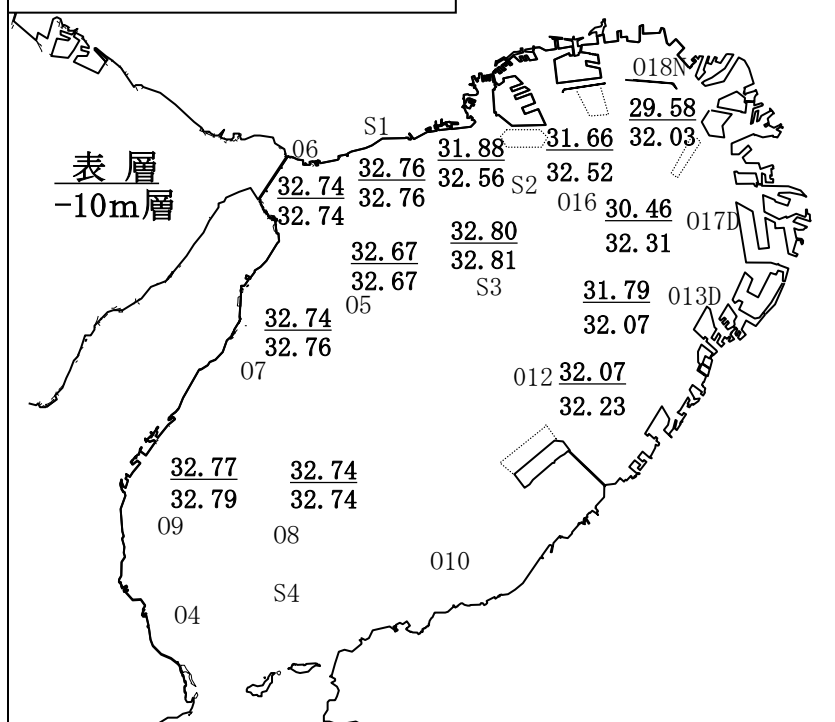
(栄養塩、他) 表層の窒素は平均6.5 μg-at/L、リンは平均0.58 μg-at/L。窒素は平年(9.0 μg-at/L)より低く、リンも平年(0.61 μg-at/L)よりやや低い。-10m層(平均)は、窒素6.1 μg-at/L、リン0.59 μg-at/L。窒素は、神戸空港西から湾奥・堺沖にかけての水温及び塩分が低い海域で9 μg-at/L以上、その他の海域で5 μg-at/L台であった。湾央~淡路東浦では珪藻類はほぼ確認されず、湾全般に植物プランクトンの発生量は少ない状況であったが、大阪南港沖では小型珪藻のスケルトネマが大量発生しており、赤潮として確認された。また、和田岬から湾奥・岸和田にかけて、コシノディスカスがやや確認された。

上段 (今回値)	2022年12月13日調査
中段 (昨年値)	2021年12月 7日調査
下段 (平年値)	12月上旬

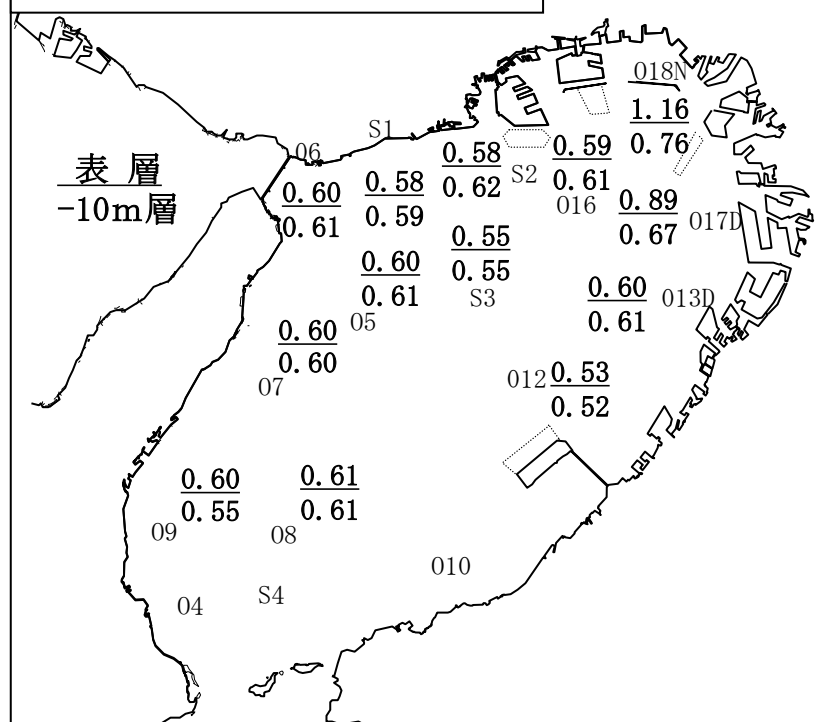
調査地点	水温 (°C)	塩分 (psu)	三態窒素 (μg-at/L)	リン酸 (μg-at/L)
04	17.4	32.76	6.8	0.56
	17.0	32.67	5.4	0.60
05	16.5	31.85	3.4	0.53
	17.2	32.05	6.3	0.62
06	17.3	32.74	5.5	0.60
	16.5	31.87	3.1	0.49
07	17.3	32.08	6.4	0.63
	17.3	32.74	5.5	0.60
08	16.8	32.00	4.0	0.50
	17.4	32.10	6.1	0.60
09	17.3	32.74	5.6	0.61
	17.6	32.79	3.7	0.45
010	17.6	32.41	6.3	0.55
	17.3	32.77	5.3	0.60
012	17.6	32.78	3.5	0.45
	17.6	32.55	5.6	0.52
013D	16.5	31.94	4.4	0.55
	16.7	31.85	7.9	0.60
016	16.0	32.07	7.6	0.53
	15.7	31.24	9.3	0.61
017D	16.0	31.30	10.8	0.60
	16.0	31.79	9.8	0.60
018N	15.3	30.80	13.5	0.73
	16.1	30.94	14.6	0.67
S1	15.9	31.66	10.0	0.59
	14.8	29.19	23.6	1.05
S2	15.6	30.25	16.6	0.71
	16.0	30.46	27.9	0.89
S3	15.6	29.38	23.9	1.08
	16.0	29.81	23.2	0.94
S4	15.7	29.58	25.9	1.16
	16.2	30.69	16.3	0.88
04	16.1	29.76	23.2	0.98
	17.3	32.76	5.7	0.58
05	14.7	30.20	17.1	0.89
	16.5	31.50	10.5	0.66
06	16.0	31.88	9.3	0.58
	14.3	29.38	21.2	0.95
07	15.6	30.61	15.3	0.70
	17.5	32.80	5.5	0.55
08	16.5	31.84	3.0	0.55
	17.1	31.81	7.1	0.54
09	16.8	32.46	7.7	0.63



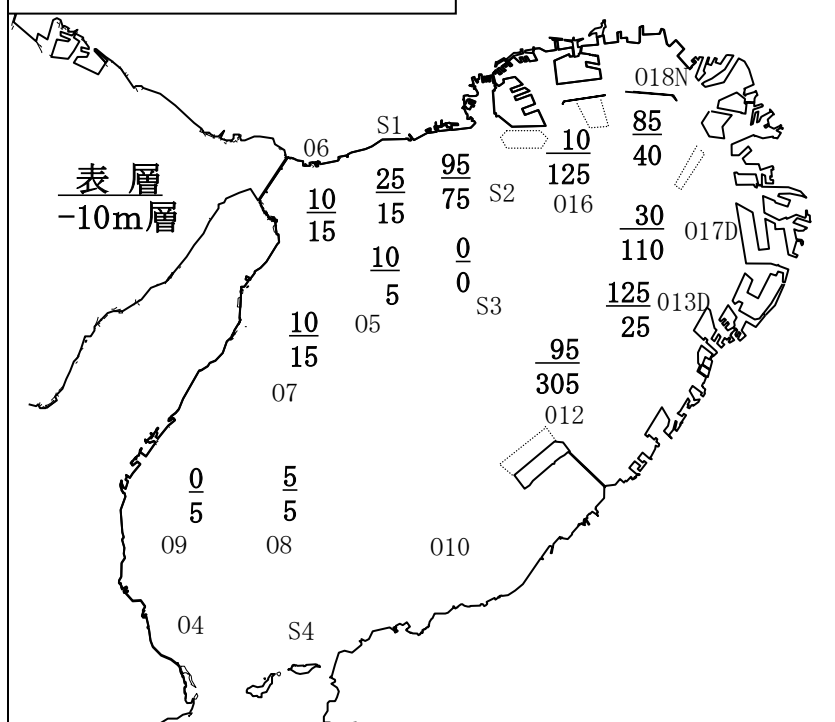
塩分 (表層、-10m層)



リン濃度 (表層、-10m層)



コシノディスクス (細胞/L)



スケルトネマ (細胞/ml)

